

あ お も り

町村 自治

2023

令和5年

1

No.1237

年4回発行

編集・発行 青森県町村会

〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号 TEL. 017-723-1331 FAX. 017-723-1347

HP <http://www.aomori-chousonkai.jp/>

新年のごあいさつ	2
全国町村長大会	4
理事会、負担金等委員会ほか	6
いまが旬！	10
随想 佐井村長 太田 直樹	14



新たな拠点 kaneshichi+

さいむら
佐井村

江戸時代後期から明治時代初期の間に建てられた、築およそ150年と伝わる古民家（通称カネシチ）がリノベーションされ、新たな空間「kaneshichi+（プラス）」として生まれ変わりました。

村内外の人が気軽に集まる拠点やコワーキングスペースとしての活用が期待されます。



新春にあたり

青森県町村会長 船橋 茂久

明けましておめでとございます。

町村長をはじめ関係各位におかれましては、新春をお健やかに
お迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、本会に対す
る御理解と御協力に感謝申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症につきましては、これま
で感染の波を繰り返し、我が国の国民生活と経済活動に甚大な影
響を及ぼしてきました。これに加え、現在の深刻な国際情勢や急
速な円安の進行に伴う経済の低迷、物価高騰などにより、社会全
体に閉塞感が漂っています。

また、昨年八月の大雨災害では、多くの町村で広範かつ甚大な
被害が発生し、現在も被災町村においては、国・県と連携を取り
ながら、復旧・復興に向けて全力で取り組んでいるところ です。

こうした難局を乗り越え、地域住民の安全・安心な暮らしを取
り戻すため、感染症対策の充実強化と地域経済再生に向けて、ま
た、いつ、どこでも起こりうる災害に備え、防災・減災対策、国
土強靱化に向けて私たち町村は心一つにして全力で取り組んで

あけましておめでとうございます

青森県町村会

同	同	監事	同	同	同	同	同	同	理事	同	副会長	会
畑	桑	櫻	松	富	野	平	吉	山	濱	戸	船	長
中	田	井	尾	岡	村	田	田	崎	館	田	橋	茂
総	豊	雅	和	宏	秀	博	満	結	豊	衛	久	久
朗	昭	洋	彦		雄	幸		子	光			



参ります。

さて、本会ではコロナ禍での県内三十町村を後押しするため、令和二年度よりマイクロツーリズムを推進しております。昨年は八月から十月にかけて県民の方々を対象に「30町村にいらっしやいませキャンペーン」を実施いたしました。三千五百通を超える多数の応募があり、応募者からは、「行ったことのない県内町村を訪れるきっかけとなった」「近くの町や村の良さを改めて感じた」との御意見を頂戴したところです。

今後とも、我々町村は自主的・自律的に地域特性や資源を活かした様々な施策を展開し、コロナ禍の中においても豊かで安全安心な地域社会の実現と個性あふれる活力ある多様な地域づくりに邁進していかねばなりません。

そのためには、何よりも地方財源の安定確保が重要であります。本会といたしましては、今後も国に対し町村の命綱ともいうべき地方交付税をはじめとする一般財源総額の確実な確保をはじめとして、防災・減災対策や地域医療の充実、農林漁業等各種施策の振興対策等を強く求めて参ります。

今後とも全国六番目の規模を誇る本県三十町村を大きな財産として、持続可能な地域社会と輝かしい未来の実現に向け、町村長相互の連携と調和をもち、県をはじめ全国町村会や関係機関と連携し、様々な活動を展開して参ります。

最後に皆様方の御多幸と町村の益々の発展を祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

顧問 工藤 祐直

同 吉田 豊

常務理事兼事務局長

原田 啓一

ほか職員一同

青森県市町村総合事務組合

管理者 船橋 茂久

青森県広報広聴協議会

会長 船橋 茂久

全国山村過疎地域振興連盟
青森県支部

支部長 山田 年伸

発電関係市町村全国協議会
青森県支部

支部長 松尾 和彦

新型コロナウイルス感染症対策の充実強化などを訴える

全国町村長大会

全国町村会は11月17日、東京都のホテルニューオータニで全国町村長大会を開催し、県内町村長をはじめ、全国の町村長など約1,200人が出席した。



大会では、荒木全国町村会長（熊本県嘉島町長）があいさつし、「新型コロナウイルス感染症に加え、深刻な国際情勢や急速な円安の進行に伴う経済の低迷、物価高騰等により、社会全体に閉塞感が漂っている。こうした難局を乗り越え、国民の安全・安心な暮らしを取り戻すためには、感染症対策の充実強化と先般策定された新たな総合経済対策による地域経済再生に向けた力強い支援が必要だ。そして、東京一極集中を是正し、『分散型の国づくり』を強力に推進することで、感染症や大規模災害にも柔軟に対応できる『持続可能な地域社会』を追求していかなければならない」と訴えた。

引き続き、栗生俊一内閣官房副長官や細田博之衆議院議長などの来賓あいさつがあり、東京大学名誉教授の月尾嘉男氏が、町村への応援メッセージを送った。

その後、議事に入り、町村行財政をめぐる諸問題解決に向けた十七項目の決議案並びに緊急決議等が満場一致で決定された。さらに、三十五項

決議（項目抜粋）

- 一、新型コロナウイルス感染症対策の充実強化を図ること。
- 一、原油価格・物価高騰対策等を強力に推進し、地域経済の再生を図ること。
- 一、食料安全保障の確立と持続可能な農業・農村政策を推進すること。



船橋全国副会長（右から3番目）

目の大会要望も一括採択された。

令和5年度政府予算編成 全国町村会が要請活動



本田政務官（中央左）に要望書を提出する船橋全国副会長

全国町村会は、令和五年度政府予算編成を控え、十一月三十日、正副会長が全国町村長大会で採択した決議、特別決議・緊急決議及び全国町村長大会要望の実現方について、総理官邸、自由民主党、総務省、国土交通省、厚生労働省、農林水産省に対し、実行運動を行った。

船橋本会会長も、全国町村会の副会長として、厚生労働省での要請活動に参加し、本田政務官、榎本医政局長、佐原健康局長らに面談のうえ、要望書を提出した。

一、東日本大震災、豪雨災害等からの復旧・復興の加速と、全国的な防災・減災対策、国土強靱化を推進すること。

一、東京一極集中を是正し、分散型の国づくりを強力に推進すること。

一、デジタル田園都市国家構想交付金を拡充し、デジタルを活用した地域活性化と地方創生の更なる推進を図ること。

一、町村にとって命綱である地方交付税等の一般財源総額を確保すること。

一、情報通信基盤とそのネットワークの一層の整備をはじめとするデジタル化施策を積極的に推進すること。

一、地方分権改革を推進すること。

一、地域からの脱炭素化推進を図ること。

一、田園回帰の時代を拓き、都市と農山漁村の共生社会を実現すること。

一、農林漁業の振興による農山漁村の再生・活性化を図ること。

一、TPP11や日EU・EP A、日米貿易協定等による影響を見据え、国内農林水産業対策に万全を期すこと。

一、国産木材の一層の需要拡大・利用促進による林業の振興を図ること。

一、ゴルフ場利用税を断固として堅持すること。

一、参議院の合区を早急に解消すること。

一、領土・外交問題・国民の安全保障に毅然とした姿勢で臨むこと。

本会、岩手県町村会、秋田県町村会は、十一月十七日、三者合同により、東京都のホテルニューオータニで北東北三県町村長中央研修会を開催した。出席者は各県町村長及び事務局長等約七十人。

研修会では、本会の船橋会長のあいさつに続き、一般財団法人日本総合研究所理事長で多摩大学学長の寺島実郎氏が「世界認識と日本の針路」と題し講演した。



寺島実郎氏を 講師に迎え

講師に迎え

本会、岩手、秋田で合同研修
北東北三県町村長中央研修会



自治功労者の 推薦等を決定

第3回理事会

本会は十月二十四日、青森市の県共同ビルで第三回理事会を開催した。出席者は戸田副会長をはじめ役員町村長十人。

彰規程による自治功労者の推薦など二件の事項を協議した。協議事項は次のとおり。

協議事項

○全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦について
自治功労者として町村長三名を推薦する。

○青森県町村会表彰規程による被表彰者について
自治功労者として町村長一名、一般職の職員百二十一名を被表彰者とする。



令和五年度法令外負担金を審査

負担金等委員会

本会は十月二十四日、青森市の県共同ビルで負担金等委員会を開催した。出席者は船橋会長をはじめ委員の町村長九人。

本委員会は、各町村の非常に厳しい財政状況の中、財政をさらに圧迫する法令外負担金等の負担内容を明確化し、町村行財政の安定と効率的運営を図るため開催するもの。

令和五年度の法令外負担金規制団体は四十四団体（対前年度比 同数）で、総額九千

二百九十五万九千二百三十千円の回答があり、審議の結果、令和五年度の負担金額は、各団体から提出があった負担金額どおり決定した。

また会議では、各法令外団体は新たな視点で目的や事業の抜本的な検討・協議が必要であるとの認識の下、各法令外団体に対し、次の事項を申し入れすることとした。

1. 経費節減や予算における繰越金等を含めた団体運営のあり方について常日頃から見

直しをし、町村負担金の減額に努めること。

2. 町村負担金は、本会の決定額を上限とし、事業費等の増額に連動し町村負担総額を増額しないこと。
3. 会員市町村数等の減少に伴い、均等割負担金を増額しないこと。また、賦課基準とする数値が減少した場合は、現行の町村負担金を維持するため、賦課基準の単価を増額しないこと。
4. 他団体と統合した団体においては、統合に伴う事務運営の効率化により町村負担の軽減を図ること。

令和三年度の

決算を認定

県市町村総合事務組合

県市町村総合事務組合は、十月三日、青森市の県共同ビルで第一回組合議会定例会を開催した。出席者は船橋管理者をはじめ議員等の市町村長八名。

定例会では、議案六件と報告事項四件を審議し、それぞれ原案どおり承認・決定した。

議案

○議案第一号 令和三年度青森県市町村総合事務組合一般会計歳入歳出決算の認定を求めめるの件
歳入総額七億七億三千二百七十六万六千九百六十九万二千余円で、歳入歳出差引額千三百七十三万三千余円。このうち六百七十万円を財政調整基金に繰り入れる。

○議案第二号 令和三年度青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理特別会計歳入歳出決算の認定を求めめるの件
歳入総額七千三百八十万五

千余円に対して歳出総額六千六百九十七万七千余円で、歳入歳出差引額六百八十二万七千余円。このうち三百五十万円を財政調整基金に繰り入れる。

○議案第三号 令和四年度青森県市町村総合事務組合一般会計補正予算（補正第一号）
案
青森県市町村総合事務組合一般会計の各事業における前年度繰越金の処分について、合計百六十七万七千円を、財務調整基金に積み立てることとした。

○議案第四号 令和四年度青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理特別会計補正予算（補正第一号）案
今後
の収支の精査に基づき、市町村負担金を減額し、前年度繰越金を増額する。

○議案第五号 青森県市町村税等滞納整理事務の移管等に関する条例の一部を改正する条例案
徴収の猶予制度の見直しに伴う所管の改正を行った。

○議案第六号 監査委員の選任について同意を求めめるの件
監査委員に櫻井新郷村長、山田大鰐町長を選任する。

山村振興関連

予算・施策の充実・強化を求めて

全国山村振興連盟通常総会

全国山村振興連盟は十一月十八日に東京都のグランドアーク半蔵門で令和四年度通常総会を開催した。



開会の辞を述べる久慈全国副会長

開会にあたり、本県副支部

長で山村振興部会長の久慈蓬田村長が全国連盟副会長として開会の辞を述べた。

また、来賓の奥野農林水産副大臣、荒木全国町村会長からそれぞれ祝辞が述べられた。

続く議事では、総会に提出された議案二件が審議され、いずれも原案のとおり決定された。

総会終了後、久慈副支部長は要請活動に参加し、衆議院議員会館、農林水産省、林野庁で要望書を手渡した。

総会提出議案は左記のとおり。

議案

- 第一号議案「令和五年度山村振興関連予算・施策に関する要望（案）」に関する件
- 第二号議案「決議（案）」

りんご娘と青森を盛り上げたい 市町村自治研修会

本会は、県市長会との共催により、十月十四日、青森市のホテル青森で令和四年度市町村自治研修会を開催した。出席者は町村長、副町村長及

び幹部職員等約三十七人。

本研修会は、各市町村が地域特性や資源を活かした多様な個性豊かな地域社会を目指すしながら、諸課題に的確に対応

過疎市町村の財政基盤の確立を要望

全国過疎地域連盟県支部

一般社団法人全国過疎地域連盟は十一月十五日に東京都

の日本教育会館で第五十四回総会を開催した。



渡辺支部長に参議院議員参議院議員に要望書を手渡す山田大

総会に提出された議案三件は、いずれも原案のとおり決定され、総会終了後、本県支部では要請活動を実施し、支部長の山田大鰐町長が本県選

出国会議員に面会のうえ、要望書の提出とともに過疎対策事業債の必要額の確保などを訴えた。

総会提出議案は左記のとおり。

議案

- 第一号議案「役員（補欠）の選任について
- 第二号議案「令和五年度過疎対策関係政府予算・施策に関する決議・要望について
- 第三号議案「要請活動方法について

していくため、例年開催しており、新型コロナウイルス感染症の影響により三年ぶりの開催となった。

研修会では、船橋

本会会長が「今まさに直面している課題にも、しっかりと対応できる体制の構築と同時に、活力ある魅力的な地域づくり、そして何よりも地域を支える人づくりを推進していくことが、より一層求められて

きているものと認識している」とあいさつした。



続いて、株式会社樋川自動車代表取締役兼有限会社リソゴミュージック代表取締役の樋川新一氏が「置かれた場所で夢を叶える」青森県のヒト・モノ・コトを「ユーモア」と「情熱」でプロデュース」と題し、講演した。

講演では、樋川氏が東京の大学を卒業後、地元を活性化させたいとゼロから芸能活動をスタートさせたことや、活動がスタートして二十年になるりんご娘について、人を育てることの大切さと難しさを含め熱く語られた。

加入推進に理解と協力を

災害共済関係事業等地区別加入推進事務打合せ

本会は十月中旬から下旬にかけて、県内三地区三会場で開催し、関係市町村及び一部事務組合などを対象に、災害共済関係事業等地区別加入推進事務打合会を開催した。

前シテイ
中南部・西北郡・黒石市・五所川原市・つがる市・平川市

打合会では、各共済事業の幹事会社である損保ジャパン(株)及び日本生命保険相互会社、本会事務局が共済事業の加入推進への理解と協力を呼びかけた。

■十月二十七日(木)
会場 青森市ホテル青森
東郡・上北郡(野辺地町、横浜町、六ヶ所村)・下北郡・むつ市

主な打合事項
1 各共済事業幹事会社制度
内容説明
2 全国自治協会災害共済事業の加入推進等について
3 全国町村職員生活協同組合の加入推進等について
4 全国町村会保険事業の加入推進等について
5 自動車共済事業について

開催日及び対象地区

■十月十八日(火)
会場 八戸市プラザホテル
上北郡(七戸町、六戸町、東北町、おいらせ町)・三戸郡・十和田市・三沢市
■十月二十日(木)
会場 弘前市アートホテル弘

令和5年

町村長の任期満了日

板柳町 四月二十九日
五戸町 六月二十六日
野辺地町 十月二十六日

令和4年12月8日現在

(青森県選挙管理委員会
HPより抜粋)

平内町 十一月十四日
藤崎町 十一月十九日

青森県町村長等名簿

令和4年12月26日現在
町村数30町村(22町8村)

町村	区分	町村長氏名	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長氏名
東郡	平内町	船橋茂久	S24. 7.17	3	R 5.11.14	山田光昭
	今別町	阿部義治	S25. 9.18	2	R 8. 7.23	
	外ヶ浜町	山崎結子	S56. 6.21	2	R 7. 4.23	
	蓬田村	久慈修一	S25. 8. 1	3	R 7.11. 8	
西郡	鱒ヶ沢町	平田衛満	S34.11. 1	2	R 7.12.26	加藤隆之
	深浦町	吉田満	S28. 9. 9	4	R 6.12.20	佐藤洋一
中郡	西目屋村	桑田豊昭	S32. 1.11	1	R 7. 2.20	
南郡	藤崎町	平田博幸	S32. 6. 2	3	R 5.11.19	五十嵐晋
	大鰐町	山田年伸	S27. 3.11	4	R 8. 7.21	
	田舎館村	鈴木孝雄	S12. 2.10	5	R 6.11.17	金枝尚明
北郡	板柳町	成田誠	S28. 3. 4	2	R 5. 4.29	村上孝夫
	鶴田町	相川正光	S28.10.29	3	R 8. 8.20	
	中泊町	濱舘豊光	S34.10. 3	2	R 7. 4.23	横野彰吾
上北郡	野辺地町	野村秀雄	S38. 4.15	1	R 5.10.26	江刺家利夫
	七戸町	小又勉	S24. 1. 2	5	R 7. 4.23	高坂信一
	六戸町	吉田豊	S25. 3.28	8	R 6. 1.27	下田正幸
	横浜町	石橋勝大	S16. 9.27	1	R 6.12.11	
	東北町	長久保耕治	S47.11.14	1	R 7. 4.23	沼尾啓吉
	おいらせ町	成田隆	S26. 2. 4	3	R 8. 3.25	小向仁生
	六ヶ所村	戸田衛	S22. 1.28	3	R 8. 7. 6	橋本晋
下北郡	大間町	野崎尚文	S30.11.17	1	R 7. 1.18	
	東通村	畑中稔朗	S37. 7.14	1	R 7. 4.12	
	風間浦村	富岡宏	S37. 4.27	2	R 7. 2.18	
	佐井村	太田直樹	S50. 7.14	1	R 8. 4.26	田名部二郎
三戸郡	三戸町	松尾和彦	S38. 5. 9	2	R 6.12.15	馬場浩治
	五戸町	若宮佳一	S41.12.30	1	R 5. 6.26	大久保均
	田子町	山本晴美	S39. 4.10	3	R 6. 1.14	福田博実
	南部町	工藤祐直	S30. 5.22	7	R 8. 2.11	佐々木俊昭
	階上町	荒谷憲輝	S45. 4.24	1	R 7.12.23	澤田充
	新郷村	櫻井雅洋	S27. 5.25	2	R 7. 5.28	横田堅悦

実施報告



本会では、令和二年度来、コロナ禍での県内三十町村の経済振興支援、青森県民の県内町村への流動を活発化させるため、マイクロツーリズムを推進している。
 この取り組みの一環として、県内町村の魅力や観光資源の再発見を促進するため、令和四年八月二十七日から十月三十一日にかけて「30町村にいらっしやいませキャンペーン」を実施した。
 このキャンペーンは、青森県民を対象に、自分の住んでいる市町村を除く二町村以上を訪れ、各町村で千円以上を消費し応募すると、抽選で五百名に町村特産品の詰め合わせ（五町村分・一万円相当）をプレゼントするもの。

■応募者数と住所地

応募総数は三千五百八十二通で、応募者の八割は市部からの応募であり、市部から町村への流動の効果が確認できた（図1）。

■応募者が訪れた地域

応募者が訪れた地域を郡別で見ると、上北郡、西北津軽郡、中津軽郡の順で多く（図2）、道の駅の利用が多く見られた。

■消費の内訳

レシートや入館券等の内訳では、食品の購入が六割を超え最も多く、食事がそれに続いており、応募者の多くが町村の食に興味を持っていたことがうかがえる（図3）。

■キャンペーンの感想（抜粋）

- ・地域を盛り上げるとても良いキャンペーンだと思います。
- ・これからも町村を応援したいと思いました。
- ・キャンペーンがあちこち出かける良いきっかけになりました。
- ・少し意識して買い物をしています。
- ・次回のキャンペーンも楽しみにしています！

図1 応募者居住地

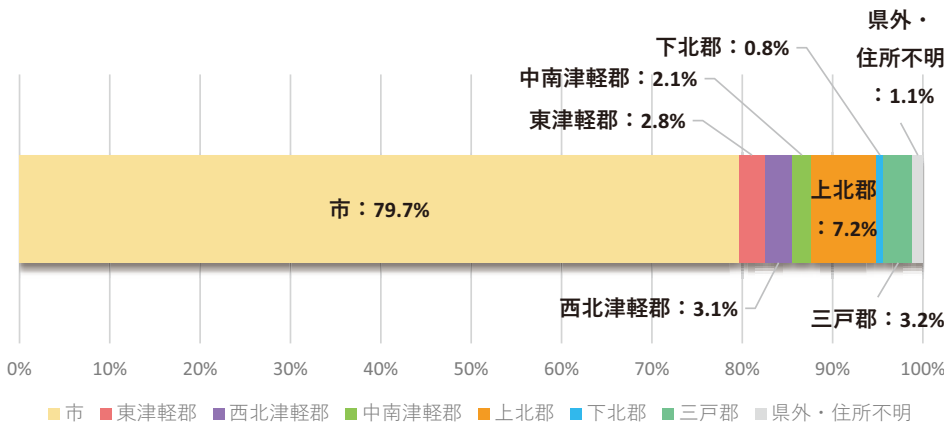


図2 応募者が訪れた地域

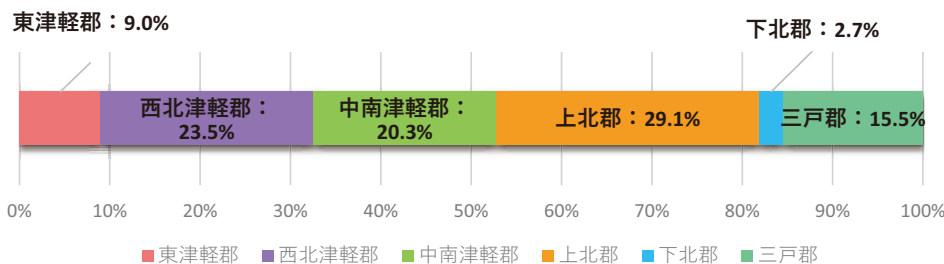
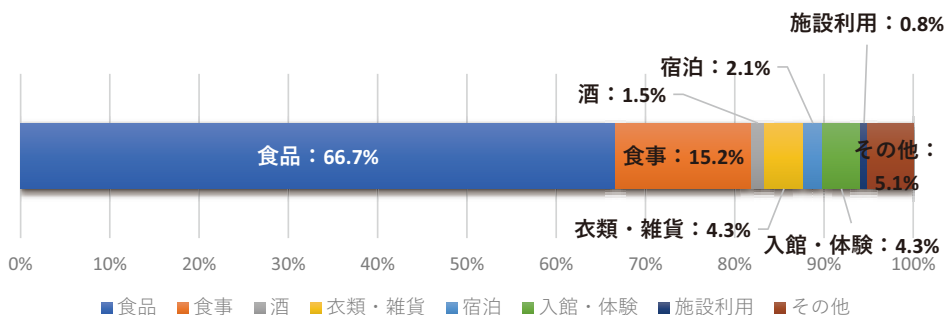


図3 消費の内訳



プレゼント品の詰め合わせ例



あどはだり・カリポリ貝ひも（平内町）、中泊メバツァ・中泊メバージョ（中泊町）、ソフト貝柱（野辺地町）、そば乾麺「ひがしどおり十割そば」・尻屋産間昆布使用「だしパック」（東通村）、ジョウミの実ゼリー・ぶどっぶるジュース・ぶどっぶるサイダー（三戸町）



もずくうどん（今別町）、津軽ほたて味噌・蔵自慢白みそ・蔵自慢赤みそ（大鰐町）、六ヶ所村ごぼうあられ・にんじんジュース・ブルーベリージュース・ふのり（六ヶ所村）、キッチンセット（風間浦村）、田子にんにくギフトセット（田子町）



ぼたん鍋

べこ鍋

問い合わせ先 道の駅いまべつ半島ぶらざアスクル
TEL 0174-31-5200

今別町の特産品が食べられるレストランでは、冬季限定メニューが登場します。幻の牛肉いまべつ牛を堪能できる「べこ鍋」と、奥津軽いのしし牧場のいのしし肉を使用した「ぼたん鍋」です。どちらも体の芯から温まる寒い冬にピッタリな美味しいお鍋となっています。

冬の今別町に足を運んでみてはいかがでしょうか？

道の駅いまべつ半島ぶらざアスクル
内レストラン 冬季限定メニュー

いまが旬!
いまべつまが
今別町

東津軽郡



問い合わせ先 農事組合法人 舩作興農組合
TEL 0173-75-2120

寒さの厳しいこの季節、世界自然遺産である白神山地の麓に位置する舩作台地では、雪の下から甘さが自慢の「ふかうら雪人参」が収穫されます。人参特有の青臭さがなくフルーツのような甘さで、ご飯の献立はもちろん、素材の味を活かしてジュースやスムージーなど多くの加工品にも利用されています。

ぜひ、ご賞味ください。

冬のブランド野菜
ふかうら雪人参

いまが旬!
ふかうらまが
深浦町

西津軽郡



問い合わせ先 田舎館村役場 企画観光課
TEL 0172-58-2111

雪原をスノーシューで踏み固めて描くスノーアート。スノーアーティスト集団It's OK.が雪原に巨大なアートを描きます。期間中は、夜間ライトアップのほか、スノーアート体験やソリ山遊び、スノードームづくりなど冬を楽しむイベントも実施します。

○日時：2月10日(金)～12日(日)

○場所：弥生の里展望所とその周辺(道の駅いなかだて「弥生の里」内)

冬の田んぼアート

いまが旬!
いなかだてむら
田舎館村

南津軽郡



問い合わせ先 道の駅おがわら湖「湖遊館」
TEL 0176-58-1122

大粒・良品質であることが特徴の小川原湖の大和しじみはこの時期、寒さに耐えようと栄養分が高くなるため、うま味が増します。

道の駅おがわら湖で一番人気メニューの「しじみラーメン」は、塩味のスープに溶け込んだ濃厚なしじみエキスが麺とよく絡み、冷えた身体を芯から暖めてくれます。

道の駅おがわら湖ではしじみも販売しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

うま味増しまし 寒シジミ

いまが旬!
とうほくまが
東北町

上北郡

いまが旬!

六ヶ所村

上北郡

ろくかしょむら

六ヶ所村1カ所で縄文約1万年の歴史を見る・体感する

現在、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産認定により、縄文文化が注目されています。村でも縄文時代草創期（約12,700年前）から晩期（約2,500年前）までの約1万年にわたる多くの貴重な遺跡と遺物が発見されています。これらを保存・管理する六ヶ所村立郷土館では土器やジオラマの展示見学の他、勾玉づくりや土偶づくりなどを体験できます。



問い合わせ先 六ヶ所村立郷土館
(指定管理者：一般財団法人六ヶ所村文化振興公社)
TEL 0175-72-2306

いまが旬!

階上町

三戸郡

はしかみちよう

早生えんぶり祭り開催!

2月5日(日)に階上町わっせ交流センターで「早生えんぶり祭り」を開催します。町内のえんぶり組が一堂に会するお祭りで、勇壮な摺(すり)を観賞することができます。

また、風味の豊かな「階上早生階上そば」も味わうことができますので、ぜひお越しください。

《所在地》

階上町大字平内字上道1-1

《食堂営業時間》

11:00~14:00 ※水曜定休



問い合わせ先 階上町わっせ交流センター
TEL 0178-88-2709

いまが旬!

新郷村

三戸郡

しんきょうむら

間木ノ平グリーンパークで冬キャンプ キャンプ飯はホットドッグで決まり

ソロキャンパーや女性客専用のテントサイトを開設し、注目が集まる間木ノ平グリーンパークキャンプ場。

今季から、「ブルーランジェリータカ」が焼くパンと、村活性化公社の製造するソーセージ「チューリンガーブラートヴルスト」が販売され、この二つを組み合わせるホットドッグは、キャンプ飯として人気を集めています。



問い合わせ先 新郷村ふるさと活性化公社
TEL 0178-78-2511

●お知らせとお願い

「あおもり町村自治」は、会務活動状況及び災害共済諸事業の啓発事項、県市町村総合事務組合及び内部団体の活動状況のほか、町村長の紹介及び各町村の特集記事等を掲載し、3カ月に1回季刊発行しています。

本ページの「町村トピックス いまが旬!」は、各町村の時期、季節の旬の情報をPRするコーナーで、イベント、観光スポット、施設、特産品、町の話・出来事などが満載!

各町村で、本紙への掲載希望事項等がありましたらご連絡ください。また、表紙写真や関連記事等掲載依頼の際は、ご協力をよろしくお願いいたします。

災害対策費用保険制度は こんな時に役立っています！

近年、自然災害が増加し、多くの避難指示等の発令がなされておりますが、発令の9割以上（令和3年度末時点過去7年間）が災害救助法の適用にいたっておりません。

平成29年度よりスタートした「災害対策費用保険制度」ですが、令和4年5月1日時点で361自治体（地震・噴火・津波オプション66自治体）にご加入いただき、過去5年間で1,334件（約12億円）の保険金をお支払いしております。

避難指示等 1 回あたり 平均約130万円のお支払い

上記は平均支払額であり、一事故限度額を超えて費用がかかってしまっている場合も複数あるため、実際の費用は上記支払平均額よりも多くかかっております。

※災害救助法の適用を受けた災害はお支払い対象外です。



●年度別発令支払保険金（全国）

年度	支払件数（件）		
	避難勧告／避難指示	避難準備／高齢者等避難開始	合計
平成29年度	46	66	112
平成30年度	148	158	306
令和元年度	106	192	298
令和2年度	174	153	327
令和3年度	173	118	291
合計	647	687	1,334

年度	支払保険金（円）		
	避難勧告／避難指示	避難準備／高齢者等避難開始	合計
平成29年度	53,637,552	27,752,096	81,389,648
平成30年度	197,853,858	78,761,298	276,615,156
令和元年度	122,574,749	72,396,736	194,971,485
令和2年度	288,025,591	72,592,052	360,617,643
令和3年度	205,128,236	46,357,112	251,485,348
合計	867,219,986	297,859,294	1,165,079,280

年度	支払平均金額（円）		
	避難勧告／避難指示	避難準備／高齢者等避難開始	合計
平成29年度	1,166,034	420,486	726,693
平成30年度	1,336,850	498,489	903,971
令和元年度	1,156,366	377,066	654,267
令和2年度	1,655,319	474,458	1,102,806
令和3年度	1,185,712	392,857	864,211
合計	1,340,371	433,565	873,373

住民の生命・身体の保護を図るために、『できるだけ早期に避難指示等の発令』や『予防的な避難指示等の発令』が求められております。

●避難情報に関するガイドライン

警戒レベル	住民が取るべき行動	行動を促す情報	発信者
警戒レベル5	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保	市町村が発令
警戒レベル4	危険な場所から全員避難	避難指示	
警戒レベル3	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難	
警戒レベル2	自らの逃避行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報	気象庁が発表
警戒レベル1	災害への心構えを高める	早期注意情報	

災害対策費用保険 のご案内

災害対策費用保険は、自然災害またはそのおそれが発生し、避難指示または高齢者等避難を発令したことにより発生した費用について保険金をお支払いする制度です。

災害発生時、町村長にはあらゆる負担がのしかかります。
その**精神的・財政的負担を軽減**するのが、この保険制度です。



**災害対策費用保険が
後押しいたします。**

※災害救助法の適用を受けた災害は除く

迅速かつ適切な「避難指示」等が 住民の生命を守ります

災害への備えとして
保険に加入
しませんか？

- ✓ 避難所の設置費用や飲料水等の供給費用等が対象！
- ✓ 保険料は普通交付税措置！
- ✓ 感染症対策のためホテルを借りる費用や、マスク・消毒液等も対象！

詳細は

zck 費用保険



で検索！

※加入の申し込み、お問い合わせは、
青森県町村会までご連絡ください。

佐井村長

おお 太田 直樹

プロフィール

村議会議員。
現在1期目、47歳。



随想

第56話

まっすぐに、正直に 教育と自然からの学びを生かした村づくり

私は昭和五十年に佐井村に生まれ、今年四十八歳、年男になります。佐井小・中学校を卒業して仙台の高校に進学しました。子供の頃はあまり自分の住む村を好きではありませんでした。好きではないというより、村の外の世界への憧れが強く、早く村から出て、広い世界で色々な経験をした、というような事をいつも考えていました。東京の高校に進学したのですが、父から、「都会すぎる」という理由で却下され、それだったら「東北で一番栄えている都市はどこだ、仙台だ」という事で仙台の高校への進学を決めました。

丁度、私が中学生の頃、大越基投手を擁する仙台育英学園が甲子園で準優勝し、テレビや新聞で取り上げられていました。仙台に行くなら仙台育英学園だという安易な選択でしたが、昨年、母校の後輩たちが東北勢初の甲子園優勝を成し遂げてくれた事に、心から感謝しています。また、当時の佐井村の人口は約三千人でしたが、生徒数が村の人口よりも多い学校で過ごした三年間は、その後の私の生き方、考え方の土台となる貴重なものでした。

高校卒業後、念願の東京の大学に進学し、教員免許を取得しますが、教員を目指していた訳ではなく、神社仏閣や

世界遺産に興味があったので建築士になりたいと思っていました。当時の私は大学卒業後、東京の設計事務所就職し、ある程度の年齢になったら佐井村に帰って第一次産業に関わる仕事をしながら両親と暮らす事を考えていました。



しかし、多くの方々のご縁もあり、中学校教員として青森に戻る事になりました。私が勤めた頃の学校は、全国的に荒れていて毎日が闘いの日々でした。心が折れそうになった事もありましたが、佐井村の自然の中で培った強い体、仙台や東京で知り合った多くの仲間、そしてスポーツを通して得た様々な経験が支えとなり、どうにか乗り切

ることができました。今思い返すと、この時期に物事を大きく柔らかく、捉えることの重要性に気づく事が出来て本当に良かったと思っています。教員生活十三年目に、佐井村に赴任しましたが、十五歳で村を離れ、二十年振りに帰った故郷は人口が千人以上減り、二千人半ばとなっていました。父と呑みながら村政について話をすることもありましたが、その度に私は理想を語り、父は現実を話すので意見が食い違う事も多々ありました。今、思えば、父の話をより多く、もっと素直に聴いておけば良かったと後悔しています。父の入院を機に両親を支え、自分の子供をきちんと育てる為には、佐井村に住んで、母と一緒に暮らすのが一番良いと考え、教職を辞しました。

今でこそ、職員一同には「仕事よりも家族が優先」、「家族を大事にできない職員が村民を大事に出来ずか」と話す事もあります。教員時代の私は子育てを殆どせず、ほぼ100%仕事に没頭してました。教員を退職してから五年間、作業員として山で働いたのですが、その経験が教員になる前にならなければならぬ家族を幸せに出来たかも知れない、生徒達の力をもっと伸ばせたかもしれない、そう思う事があります。人は自然に敵わない、如何に人間が傲慢で謙虚さに欠けているかを山が教えてくれました。また、林業と教育は共通点が多く、人材育成や村政運営に、この経験が役立つものと考えています。父は、私の山で働く姿や

村議会議員、そして村長に就任した姿を見る事無く昨年二月に永眠しました。父は生前「佐井村長は任中は県内外の市町村長様はじめ、県内の皆様、多くの方々は大変お世話になった」とよく話しておりました。父に代わって、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

行政経験ゼロの私が、どうか村政を運営できているのは、父の頃から、お付き合い下さる皆様からの、ご支援とお力添えの賜物だと感謝しております。父と同じことは出来ませんが、これまで培った全ての経験を糧に、村民の皆様のため、下北地域、青森県民の皆様のために「まっすぐに、正直に」職務に精励して参ります。



今後とも宜しくお願い致します。